

# 中野北遺跡

— 店舗の建設に伴う発掘調査報告 (NNN2017-1) —

2019.03.31 富田林市教育委員会

## 1.はじめに(図1)

店舗の建築に伴って実施した発掘調査である。

調査地は中野町西二丁目に位置し、国道170号(外環状線)と近鉄長野線に挟まれた一帯である。外環状線を挟んで西側は中野西遺跡があり、近鉄長野線から東側は中野北遺跡となっている。また、申請地の130m北東には仁徳天皇の治世に築かれたと伝えられる灌漑用水池の栗ヶ池が存在する。開発申請時は周知の埋蔵文化財包蔵地であったが、以上のような立地から調査地付近で遺跡が存在する可能性が高いと推測されていた。

平成27年度に試掘調査を実施し、複数トレンチで遺構が検出された。試掘調査の結果をもって、調査地まで中野北遺跡を拡大し、平成29年度に建築に先立って本調査を実施した。

## 2. 試掘調査の経緯・結果(図2)

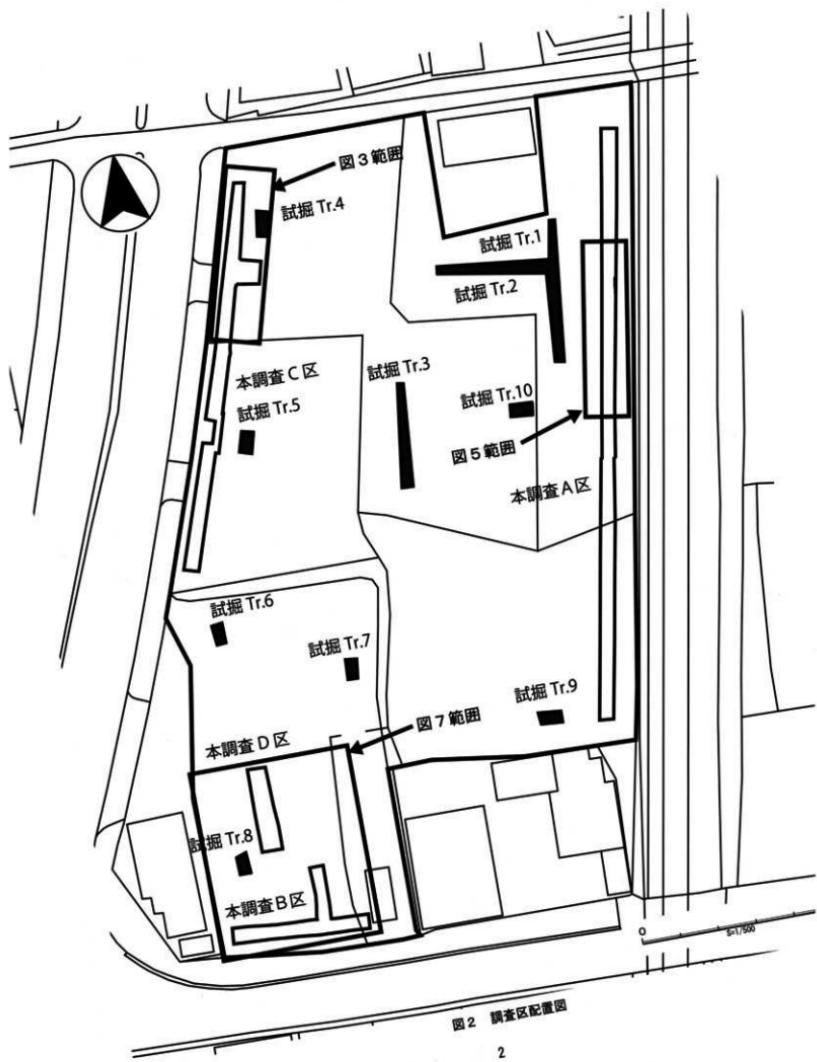
店舗建物は申請地の北東よりで、外環状線よりの西側と南側が駐車場となる。敷地面積は5,215m<sup>2</sup>、建物面積は約1,400m<sup>2</sup>にのぼる。現況地表面は外環状線から最大で2m低くなってしまい、盛土が必要となることから、申請地外周部には擁壁の建設が予定されていた。平成27年10月22日に提出された試掘調査依頼書に基づいて協議を行い、同年12月16日から18日の3日間で試掘調査を実施することで合意に達した。

試掘調査では土地境界未確定部分や耕作が続いている部分を避け、合計10トレンチを設定した。内訳は、店舗予定地に4箇所(Tr. 1-2-3-10)、申請地外周部(擁壁予定地付近)に6箇所(Tr. 4~9)である。

出土した遺物は、弥生時代中期から中世(鎌倉時代)に属する。申請地は全体的に耕作による削平を受けていると思われるが、南西側のTr. 6-7-8や北東側



図1 調査区位置図



のTr. 2・10などは遺構が明瞭に残存していた。この試掘調査の結果を受けて、申請地東側に隣接する中野北遺跡を拡大することとなった。

### 3. 本調査の調査区と調査方法(図2)

本調査対象となった擁壁・防火水槽について、次の4箇所の調査区を設定した。内訳は、東側擁壁(A区)、南側擁壁(B区)、北西側擁壁(C区)、防火水槽(D区)である。調査はC区、B区、D区、A区の順で行った。他調査区の調査と並行して、A区は申請地と線路の境界付近に土留めのための矢板を打設した。

中世包含層まで重機による掘削を行い、古代以前の包含層と遺構は人力による掘削を行った。A区は線路の崩落防止のためGL-1.0mまでの掘削で合意しており、面的な調査は中世遺構面にとどめた。

### 4. 基本層序

基本層序は、I層(盛土・現代耕作土層)、II層(旧耕作土層)、III層(中世包含層)、IV層(古代包含層)、V層(弥生時代遺構埋土)、VI層(地山)の順である。III層は本調査D区周辺を除く、申請地全域で確認されている。遺物は瓦器・土師器細片など(図10)であり、遺構密度は低い。鎌倉時代の耕作土層であると思われる。IV層は申請地南西側の試掘Tr. 6以南にのみ存在する。V層は申請地東側の試掘Tr. 10以東にのみ存在する。

### 5. 調査結果(図2~10、写1~6)

今回調査で得られた最も古い時代の遺構は、本調査A区北半(図5)で検出された弥生時代後期(V層)の南北溝2条(SD22・23)、試掘Tr. 2で検出された東西溝1条である。溝埋土から高壙脚部や壺底部など弥生時代後期の土器(図9)が出土している。いずれも破片かつ表面の摩滅がすんでおり、出土地点で投棄されたのではなく、元位置から流入したものである。湧水が激しく遺物の確認はできなかったが、層位と位置関係から試掘Tr. 10で検出した遺構も同時期のものと思われる。

古墳時代の遺構は検出されておらず、次に古い時代のものは申請地南西側で検出された古代包含層

(IV層)とそれに伴う遺構である。試掘Tr. 6・8、および本調査D区(図7)で、旧耕土層直下で一辺約0.6mの方形ピットや直径約0.3mから0.5mの円形ピットが検出されている。深さは最大でも0.2mまでであり、上部は削平を受けている。柱痕は確認できない。遺構埋土に含まれている遺物量は少ないが、黒色土器細片が出土している。ピットの形状と遺物から、平安時代頃の建物の柱穴であろう。南端の本調査B区(図7)では柱穴は検出されていない。本調査B区北側延長部では東西溝(SD14)が検出されており、出土した須恵器坏身からこの溝は奈良時代に遡る可能性がある。

本調査C区北側(図3)中央の溝(SD3)は、幅1.4m、深さ0.15mである(図4)。下部埋土がマーブル状に混和していることから、人為的なものではなく、西側の斜面上方からの一時的な流入によって形成されたものと考える。

### 6. まとめ

弥生時代後期の石川谷では、東岸の丘陵上に集落が見つかっているが、西岸では遺物は散見されるものの遺構は確認されていなかった。西岸の段丘面上において、今回調査で検出された溝から、弥生時代後期の土器がまとめて出土した意義は大きい。これらは溝上流から流入したものであり、近隣に未知の集落もしくは墓域の存在が推測される。

古代の建物遺構は、今回調査地から250m北方の宮町遺跡でも検出されている。また、南西400mに位置する新堂廃寺主要伽藍北東部でも8世紀から9世紀にかけての掘立柱建物で構成された集落を確認している。今回調査地周辺でも平安時代の一時期に集落が形成されていた可能性がある。

外環状線沿線は開発余地があることから、今後の調査の進展によって周辺の遺跡の状況がより判明すると思われる。

なお、試掘調査は渡邊 晴香・林 正樹、本調査は林が担当した。遺物実測は河原 秋桜(奈良大学)が行った。

最後になりますが、快く調査に協力していただいた関係者の皆さまに感謝を申し上げます。

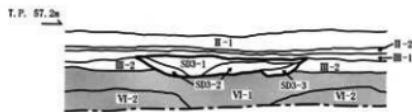
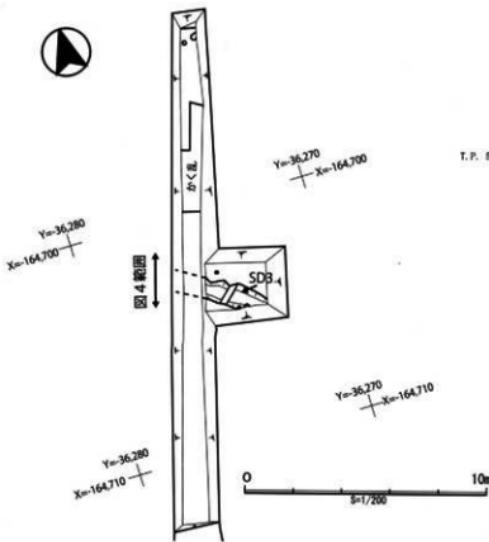
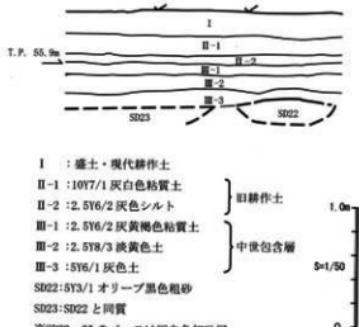
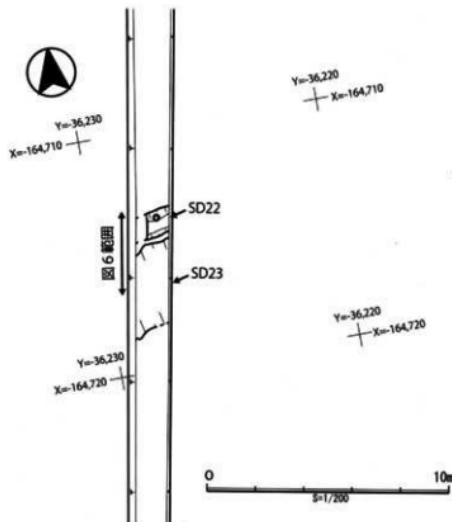


図3 C区 SD3周辺 平面図



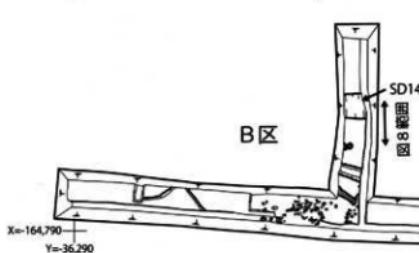
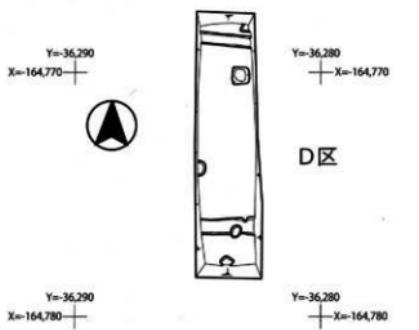


図7 南西側（B区・D区）平面図

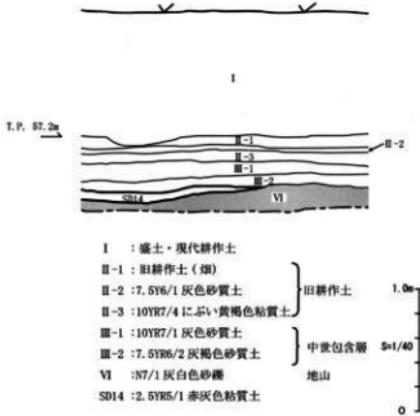


図8 B区北側拡張部 東壁

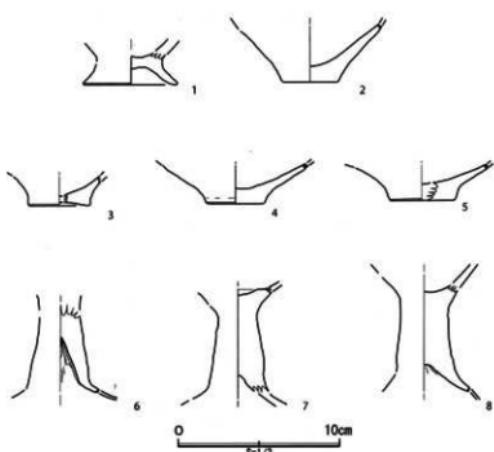


図9 A区北側 SD23 出土遺物

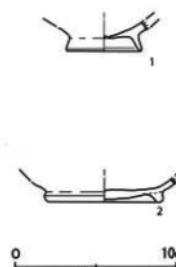


図10 A区III-1層 出土遺物



写1 本調査A区北半 SD23 検出状況（北東から）



写2 本調査C区北半拡張部 SD3 検出状況（東から）



写3 本調査B区 完掘状況（東から）



写4 本調査B区北側拡張部 完掘状況（南から）



写5 本調査D区 完掘状況（南から）



写6 試掘Tr.6 検出状況（南から）

## 報告書抄録

ふりがな	なかのきたいせき							
書名	中野北遺跡							
副書名	店舗の建設に伴う発掘調査報告 (NNN2017-1)							
シリーズ名	富田林市文化財調査報告							
シリーズ番号	64							
編著者名	林 正樹							
編集機関	富田林市教育委員会							
所在地	〒584-8511 大阪府富田林市常盤町1番1号							
発行年月日	2019(平成31)年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード	北緯	東經	調査期間	調査面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因	
なかのきたいせき 中野北遺跡	となだばやし 富田林市 なかのちょうにじにちうめ 中野町西二丁目	27214	15	34° 30' 52"	135° 36' 18"	2017.4.3～ 2017.5.31	530	店舗建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
中野北遺跡	集落跡	旧石器時代 ～中世	溝、掘立柱建物	弥生土器、石器、 須恵器、土師器 瓦器	中野北遺跡の範 囲拡大			

印刷：明朗社